

研究・調査報告書

報告書番号	担当
172	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking, cigarette smoking, and risk of colorectal adenomatous and hyperplastic polyps. 飲酒、喫煙と結腸直腸腺腫、異型性ポリープのリスク	
執筆者	
Shrubsole MJ, Wu H, Ness RM, Shyr Y, Smalley WE, Zheng W.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2008 May 1;167(9):1050-8.	
キーワード	
線種性ポリープ、アルコール摂取、慢性ポリープ、大腸がん、腸ポリープ、喫煙	
要旨	
<p>テネシー州ナッシュビルにおいて、アルコール摂取、喫煙と大腸ポリープとの関連を検討するため、大腸内視鏡を用いた症例・対照研究により評価を行った。2003年から2005年において、腺腫性ポリープのみ(n=639)、高度異型線種のみ(n=294)、その両方(n=235)と1,773人のポリープのない対照が比較された。多項ロジスティック回帰によって、調整オッズ比と95%信頼区間が算出された。週5杯のアルコール飲料の摂取はポリープの進展と強く関連しなかった。全てのタイプのポリープ発生のオッズ比は喫煙の量、期間、本数と年数の積算とともに増加し、それは線種より異型性ポリープで強かった。非喫煙と比較すると、量反応関係は現在喫煙で特に強く、期間では35年の喫煙者でオッズ比は線種のみで1.9(95%信頼区間(CI):1.4-2.5)、異型性ポリープのみで5.0(95%のCI: 3.3, 7.3)、両方あるのは6.9(95%のCI: 4.4, 11.1)であった。現在喫煙と比較すると、禁煙してからの期間はオッズの減少とかなり関連していた。20年間の禁煙でオッズ比は線種のみで0.4(95%のCI: 0.3, 0.6)、高度異型線種0.2(95%のCI: 0.1, 0.3)、両方あるのは0.2(95%のCI: 0.2, 0.4)でした。これら結果は大腸がん発生における喫煙の害を支持しており、禁煙が大腸ポリープのリスクをかなり減少させることを示唆している。</p>	